

大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」の放映等に伴う  
経済波及効果の試算

経済波及効果	一次	二次
102 億円	86 億円	16 億円

・大河ドラマの放映を契機として、多様な情報発信や集客イベントが企画されることによって、熊本県内の観光客が増加することに伴う経済波及効果を試算した（注1～3）。ただし、この試算額には、大河ドラマ以外の集客イベント等の実施に伴う経済効果が含まれるほか、一定の前提に基づいて機械的に算出したものであり、評価するうえでは、幅をもってみることが必要である。

（注1）試算には、熊本県「経済波及効果分析ツール（観光・イベント）」を利用した。

URL:[http://www.pref.kumamoto.jp/kiji\\_8525.html](http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_8525.html)

（注2）試算に使用する観光消費額、観光客数の按分データは、「平成29年熊本県観光統計表」を利用した。

（注3）「一次」は、直接効果（関係産業が直接的に受ける効果）と間接効果（直接効果を賄うため原材料等を提供する産業が間接的に受ける効果）の合計。「二次」は、一次効果によって増加した所得が消費にあてられる効果。

・今回の試算では、過去5年間（2013～2017年）に放映された大河ドラマの主な舞台となった都道府県における日本人の観光入込客増加数（放映前年と比べたもの、平均128万人）が熊本県でも実現することを前提とした（注4）。

（注4）観光客の増加数は各自治体や調査機関が公表した観光客増加数を使用した。

・上記試算額のうち、「いだてん大河ドラマ館（玉名市）」、「日本マラソンの父 金栗四三ミュージアム（和水町）」への来訪（目標入館数42万人）による経済効果は、34億円程度と考えられる。

・2019年に熊本県内で開催される主なイベントの経済波及効果（注5）を合計すると、200億円を上回る規模になると期待されるが、観光サービスの付加価値を向上させ、観光消費の持続的増加を図ることが重要である。

（注5）観光客の増加に伴うもの。

以上